

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県・北九州市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	北九州市立田原小学校 4年生・4学級＋特別支援学級1学級・127名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的学習の時間 「心のバリアフリー」) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子バスケットの選手の方の話を聞き、競技用車椅子の使用体験をすることで、障害を持った片が力強く前向きに生きていこうとしていることを学ぶ。 ・ 車椅子を使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して障害をもった方たちと共生する社会について考える。
5 取組内容	<p>第1次 9月</p> <p>①「だれもが関わり合う」ことについて考えよう。(国語と合科)</p> <p>②テーマを決めて、本で調べよう。(3時間)</p> <p>③「だれもが関わり合うための工夫や道具を発表しよう。」発表準備をしよう。(2時間)</p> <p>④発表しよう。(2時間)</p> <p>第2次【本事業展開】</p> <p>⑤車イス体験をしよう。</p> <p>10月18日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車イスの使用体験を行い、車イスの乗り方・介助の方法について知る。 <p>⑥車イスを使って生活する上での問題点を考えよう。</p> <p>10月22日(何)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車イスを使って生活する上で、どのような問題があるか予想し、調べよう。 <p>⑦車イスバスケット講習に参加しよう。(2時間)</p>

⑧ふり返りをしよう。(1時間)

10月24日(水)3校時・4校時

- ・車イスバスケットの競技者(福澤翔氏)から話を聞き、競技用車椅子の使用体験を行った。福澤氏から車イスバスケットボール競技に関する説明や車イスの操作方法に関するお話をいただいた。平井美喜氏や赤窄大夢氏を同伴して話をして頂いたため、福澤氏が説明を行い、この両者が実演する、また、体験学習では3人で指導をして頂き、とても分かりやすい講演となった。
- ・講話や体験を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考えることができた。
- ・午後から、講習会や体験についてのふり返りを行った。



⑨手話体験をしよう。

⑩もっと詳しく調べていくことを決めて、グループ分けをしよう。(1時間)

⑪調べていこう。(図書3時間 パソコン2時間)

11月1日~11月9日

⑫車イスバスケットボール国際試合を観戦しよう。(4時間)

⑬ふり返りをしよう。(1時間)

⑭発表方法について話し合おう。(1時間)

⑮発表準備をしよう。(1時間)

⑯発表をしよう。

6 主な成果

講師の福澤翔氏から車イスバスケットボールの歴史や競技のルールについて説明を受け、講演に同伴して頂いた車イスバスケットU-23強化指定選手である赤窄大夢選手、北京パラリンピック選手である平井美喜選手とともに実演して頂きながら車イスバスケットボールについての説明を受けた。

通常の手イスとは違う車イスバスケットボール用手イスについて説明を分かりやすくして頂き、車イスバスケットボールという競技に関心を持ち、理解が深まった。

借りることができた手イスの数と本校4年生の人数の関係で、体験活動をできたのが4人×10組の40人であったが、自分も体験したいという希望者が多数であったため、放課後の時間を使って体験活動を行った。実際に自分で手イスを操作することで、競技の難しさを身体を持って感じ、競技を行う方の努力やがんばりについて理解するこ

	<p>とにつなげることができた。</p> <p>また、「北九州チャンピオンズカップ国際車いすバスケットボール大会」を観戦する機会を得て、実際の競技を見ることで迫力を感じ、多くの児童が感動することができた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>4年生の児童数が多いものの、できるだけ多くの児童が体験できるように車イスを借りてきて体験できるようにした。講演会・体験会の時に体験できない児童については、当日の昼休みや放課後に体験させるようにした。</p> <p>メインの講師だけではなく2名の同伴者があったことで説明をして頂きながら実際に動いて説明してもらうことで説明者にとっても聞く側にとっても分かりやすいものとなった。</p> <p>講演者を選定するにあたり、障害者スポーツセンターに相談した。福澤氏は講演の経験が多く、また、車いすバスケットボールを通じた交流を小学校と行っていることもあり、子どもたちにとって分かりやすく興味を持てる講演をされる方であり、講師として最適な方を障害者スポーツセンターから紹介して頂きありがたかった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>人数が多いため体験を全員にさせることができなかった。もう少し長い時間を確保できれば、より多くの児童に体験させることができるのではないかと考える。ただ、体験を多く行うほど講演の時間が長くなることから講師の方の負担にならないように交渉を進めないとならない。</p> <p>車イスバスケットボール用の車イスを運搬するのが大変であった。より多くの車イスを準備できれば、体験の人数を短時間の体験会で増やすことができるが、運搬の関係で数を増やせないのが現状である。運搬代として予算が計上できることを望む。</p> <p>講演者が使用するバスケットボールを準備する必要があったが、備品費として配分された予算であるため、備品として購入する必要があり公式球を購入した。講演後の使用方法としては小学生用のボールではないため、講演記念として校長室前に飾るしか方法がなかった。需用費として頂けたらより効果的に講演の計画を立てることができたのではないかと考える。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本年度の取り組みが、4年生にとって有意義な学習になったことから来年度もできるならば福澤氏を講師招聘して車イスバスケットボールの魅力伝える講演会・体験会を実施したい。</p> <p>○ 4年生 車イスバスケットボール講演会・体験会</p>